

令和3年度

市立旭川病院 業務・決算報告

～市立病院ってどんな病院なの?～



令和4年(2022年)10月

市立旭川病院



目次

は じ め に	1
I 市立旭川病院はどんなところ？	2
1 どんな病院なの？	2
2 どんな特色があるの？	4
II 市立旭川病院の経営状況はどうなの？	5
1 令和3年度の決算は？	5
2 医療の提供による収支はどうだったの？	6
3 器械の購入など設備投資はどうだったの？	7
4 令和3年度は経営改善に向けて どんなことに取り組んだの？	8
5 経営状況の推移はどうなの？	9

市立病院のシンボルマーク



ハートの形のピンクとオレンジは、大人と子どもを表しています（患者さんやご家族）。ハートを囲む緑の輪が、病院で働く職員を表します。ピンクは「子どもを守る大人の優しさ」を、オレンジは「子どもの元気さや明るさ」を、緑は「森のような深い優しさ、温かさ」を意味します。

病院は、不安な気持ちでいっぱいな患者さんやご家族を温かな優しさで包み込み、心も体もケアしてくれる場所というイメージを表現しています。このマークのコンセプトは、「包み込む優しさ」です。

はじめに

市立旭川病院は、診療科25科、病床数481床を有する市内有数の公的医療機関として、令和3年度では入院で延べ約9万人、外来で約21万人の患者を診療し、地域医療の提供に大きな役割を果たしています。

近年、医療を取り巻く環境は大きく変動しており、人口減少や医師不足に加え、医療費の抑制を目標とした政策のもと、病院から在宅での治療へと体制づくりが進められており、病院経営にとっては厳しい状況となっています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響も依然としてあり、当院においても患者数の減少など、難しい経営状況が続いています。

そのような中でも、当院の基本理念と基本方針の精神に則り、市民の皆様が安心して暮らすことができるよう、質の高い医療の提供に向け、職員が一丸となって努力を続けています。

この冊子は、令和3年度の決算内容を中心に作成しましたが、当院の経営状況のほか、当院の役割や取組なども合わせて、ご理解いただければ幸いです。

市立病院の基本理念と基本方針

《基本理念》

患者さん中心の医療を行い、市民から信頼される病院を目指します。

《基本方針》

- 1 高度医療を担い、安全で質の高い医療を提供します。
- 2 地域の病院・診療所と連携し、地域医療の向上に努めます。
- 3 救急医療を担い、市民に安心な医療を提供します。
- 4 公共性を確保し、健全な病院経営に努めます。
- 5 教育研修を充実し、人材育成に努めます。

I 市立旭川病院はどんなところ？

1 どんな病院なの？

市立旭川病院は昭和5年に旭川市立診療所として開設されて以来、道北一円の基幹病院の一つとして、旭川市民をはじめ広く道民の方々の体の治療や心のケアのため、良質で安全な医療サービスを提供しています。

（１）地域がん診療連携拠点病院として

循環器・消化器領域をはじめとした各診療科において、高度先進医療を提供しており、がん治療においては、治療の三本柱である、手術・化学療法・放射線治療を行っています。特に、消化管がんの精密診断と最新の内視鏡治療を積極的に行っているほか、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や放射線治療機器など、最新の医療器械を導入することで、高度医療の提供と地域医療の質の向上に努めています。

また、多くのがん患者さんの診療に当たるとともに、地域のがん診療水準の向上に努めており、活動の一つとして、がん患者さんやご家族による患者会を支援したり協働することに取り組んでいます。

手術支援ロボット「ダヴィンチ」



放射線治療機器「リニアック」

（２）地域における医療連携体制について

地域でより良い医療を提供するためには、近隣の医療機関と役割を分担し協力し合うことが必要です。当院では、地域にある２００以上の医療機関に登録医として協力してもらい、連携体制を構築しているほか、患者さんの病気や障害に関する様々な不安や困りごとに対し、医療福祉相談体制を整えています。



（３）感染症指定医療機関として

当院は、感染症指定医療機関として、状況に応じて一般診療の制限をしながら、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れているほか、感染が疑われる患者さんへの診察・検査を行う発熱外来や接触者外来を実施してきました。



そのほか、民間の病院では実施が難しい不採算医療を担うなど、公立病院としての使命を果たしながら、市民から信頼される病院を目指しています。



2 どんな特色があるの？

感染症指定 医療機関

道北で唯一の感染症病棟
を保有

当院は、SARSやMERS、新型コロナウイルスなど、感染力や重篤性の観点から危険性が高いとされる第二種感染症患者を受け入れることができる感染症病棟を有しており、さらに令和3年度には受け入れ体制の充実に向け、病棟の改修を行いました。

精神科

市内の多くの身体合併症
患者を引受け

精神科病棟100床を有する総合病院として、身体の病状を抱えた精神疾患の患者さんに、精神科以外の診療科と連携して治療に当たっています。

2次救急

輪番5病院の一つとして
救急車を受入れ

重症患者を休日・夜間を問わず24時間体制でケアするため、市内の5病院で当番制により診療を実施。当院は、その一つの病院として役割を果たしています。

夜間急病 センター

24時間365日、医療
を提供

旭川市医師会で運営していた夜間急病センターを平成30年度から当院で運営することにより、夜間の一次救急を担い、いつでも医療を受けられる体制づくりに貢献しています。

小児一 次救急

準夜間帯の小児診療のため、
市立病院をセンター化

各クリニックで行っていた準夜間帯（19時～22時）の小児診療を、平成26年度から当院でセンター化し、地域の医療機関の負担を軽減するとともに、受診者の利便性を図っています。



Ⅱ 市立旭川病院の経営状況はどうか？

1 令和3年度の決算は？

当院では、主に医療の提供に係る収入と支出をまとめた「収益的収支」と、医療器械の購入や借入金などの投資に係る「資本的収支」に分けて収支状況を管理しています。

収益的収支では、17億3,325万円の黒字となりましたが、資本的収支では、借入金の返済などにより、3億4,815万円の赤字となりました。

収益的収支と資本的収支を合計し、前年度からの繰り越しを合計した結果、年度末資金は16億7,106万円のプラスとなっています。

【予算と決算】

		予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B-A)
収益的収支	収入 入院収益など	117億6,569万円	131億261万円	13億3,692万円
	支出 給与費・薬品費など	121億1,347万円	113億6,936万円	△7億4,411万円
	差引	△3億4,778万円	17億3,325万円	
資本的収支	収入 借入金など	24億7,326万円	22億1,062万円	△2億6,264万円
	支出 医療器械の購入など	28億2,341万円	25億5,877万円	△2億6,464万円
	差引	△3億5,015万円	△3億4,815万円	

※予算額は、当初予算額・補正予算額の合計額です。

※資本的収支における支出の増減は、翌年度に繰り越して支出する額1億2,430万円を除いています。

【年度末資金】

前年度末資金残高	当年度資金収支	当年度末資金残高
2億1,211万円	14億5,895万円	16億7,106万円

2 医療の提供による収支はどうだったの？

当院は、主に診療による収入により経営を行っていますが、公立病院の役割の一つである不採算医療や新型コロナウイルス感染症への対応については、旭川市や北海道などから負担金や補助金の交付を受けています。

費用については、主に医師・看護師・薬剤師等の人件費のほか、薬品などの購入費、建物や医療器械の維持管理費に支出しています。

医療の提供にかかわる収支決算（収益的収支）

【収入】

項目	収入額	説明
医業収益	88億1,450万円	入院や外来での医療行為に係る収入です。
負担金・補助金	35億1,673万円	新型コロナウイルス感染症対応に関する補助金などです。
長期前受金戻入	6億5,623万円	減価償却費等に見合う補助金収入などです。
その他	1億1,515万円	駐車場の使用料などです。
収入合計	131億261万円	

【支出】

項目	支出額	説明
給与費	59億5,889万円	職員の人件費です。
材料費	27億6,445万円	診療に使用する薬品や診療材料などの購入費です。
経費	18億7,554万円	建物・医療器械の維持管理費や患者さんの給食や窓口業務の委託料などです。
減価償却費等	5億9,978万円	建物や医療器械などの使用に伴う資産価値減少分です。
研究研修費	3,318万円	医療の質を保つために必要な医師・看護師・薬剤師等の研修費などです。
支払利息	1,809万円	借入金の返済利子です。
その他	1億1,943万円	税務署に納める消費税などです。
支出合計	113億6,936万円	

3 器械の購入などの設備投資はどうだったの？

当院は、日々進歩する医療技術に対応し、高度な医療ニーズに応えるため、医療器械の整備・更新を毎年度行っています。

医療器械は高額なものも多く、器械が古くなるとメンテナンスや修理に多額の費用がかかるため、計画的に更新を進めていくことが必要となります。

令和3年度は、診療情報や医事情報、カルテを電子化する病院総合情報システム（電子カルテ）の更新や、循環器に係る臓器などをX線撮影を用いて画像診断する循環器系X線診断装置の更新などを行いました。

設備投資にかかわる収支決算（資本的収支）

【収入】

項目	収入額	説明
企業債	13億1,900万円	医療器械等を整備するための借入金です。
一般会計負担金	8億948万円	借入金返済等のための旭川市の負担金です。
補助金	8,214万円	医療器械を整備するための補助金です。
収入合計	22億1,062万円	

【支出】

項目	支出額	説明
建設改良費	16億6,424万円	
建物	4億2,843万円	建物の工事費です。
器械備品	12億3,581万円	医療器械の購入費です。
企業債償還金	8億8,553万円	借入金の返済元金です。
投資	900万円	看護師等奨学金の貸付金です。
支出合計	25億5,877万円	

※収入と支出の差額3億4,815万円については、過年度分損益勘定留保資金等で補っています。

4 令和3年度は経営改善に向けて、 どんなことに取り組んだの？

①産婦人科の 入院診療の通年化

効果額 +9,298万円

産婦人科医が3名となったことで、年間を通じて入院診療を行えるようになり、出産の件数も増えました。

②腎臓内科の新設

効果額 +5,943万円

腎臓内科の病棟を新たに新設したことなどに伴って、入院及び外来患者数が増え、収益増を実現しました。

③人材確保・人材育成

奨学金返済支援者数 2名

不足する薬剤師の安定的な確保と離職防止を図るため、薬剤師への奨学金返済支援制度を新設し、2名の薬剤師に返済支援を行いました。また、精神科認定看護師の資格取得支援により、新たに1名が資格を取得しました。そのほかにも医師をはじめ多くの職員のスキルアップのための研修も積極的に支援しています。

④コロナ関連補助金等の活用

効果額 +30億5,850万円

新型コロナウイルス感染症へ対応しながら地域の医療需要に応えるため、国や道からの補助金等を活用し、医療体制や器械等の整備充実を図るとともに、医療技術・サービスの向上に努めました。

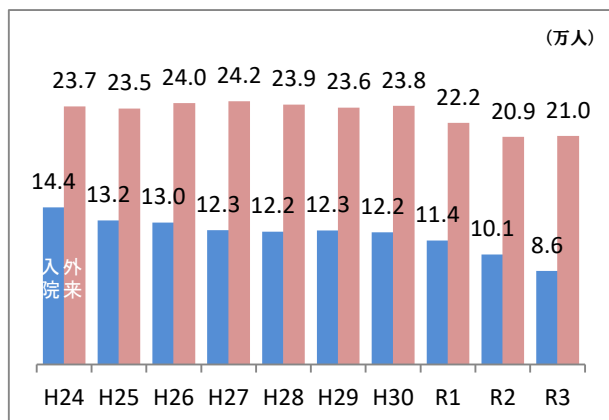
⑤断らない救急

受入件数 2,187件

救急車の搬入について、人員に限りがある中でも、可能な限り受け入れるよう努め、地域の救急医療に貢献しました。

5 経営状況の推移はどうか？

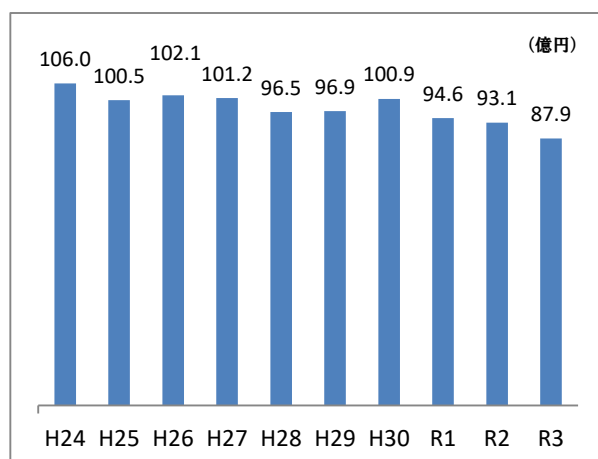
延べ患者数の推移



令和3年度は入院と外来を合わせて年間約30万人の患者さんの診療に当たりましたが、人口減少などの影響で患者数は減少傾向にあります。

特に新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降は大きく減少しています。

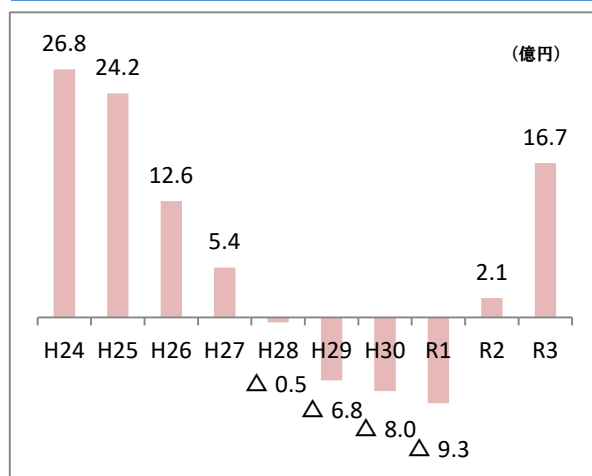
医業収益の推移



令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により患者数が減少したため、診療による収入は減少しました。

市民にとって必要な医療を提供するためには、安定した運営が必要なため、健全な経営に向けて改善に努める必要があります。

資金残高の推移



一般家庭でいう貯金額等に相当する資金残高は、近年の厳しい経営状況から大きく減少しておりましたが、当院の経営努力と新型コロナウイルス感染症に係る補助金の活用により、大幅に増加することができました。

強固な経営基盤の構築に向け、引き続き改善に努めます。

   市立旭川病院 公式YouTubeチャンネル 【公式YouTube（ユーチューブ）】 【URL】 https://www.youtube.com/channel/UCGmCBNNKQ7xaGeg_T11viA	   市立旭川病院 公式Facebook 【公式Facebook（フェイスブック）】 【URL】 https://www.facebook.com/AsahikawaCityHospital/
 市立旭川病院公式SNSのご案内 診療時間や受診案内などの情報は 市立旭川病院 公式ホームページ から 	
   市立旭川病院 公式Instagram 【公式Instagram（インスタグラム）】 【URL】 https://www.instagram.com/asahikawacityhp	   市立旭川病院 公式twitter 【公式Twitter（ツイッター）】 【URL】 https://twitter.com/AsahikawaCityHP

発行：令和4年（2022年）10月
 編集：市立旭川病院事務局経営管理課
 070-8610 旭川市金星町1丁目1番65号
 TEL：0166-24-3181
 FAX：0166-27-8505
<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/hospital/>